

格差社会を
生き延びる
読書
最強の武器
Reading Books as a Weapon.
という

大岩俊之

TOSHIYUKI ◆ OOIWA

はじめに

平成26年、総務省発表の情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査によると、日本人の1日のインターネット平均利用時間は、休日の場合は86・1分で、20代にいたっては、その約2倍となっています。

これは、5年前に比べて1・5倍以上の数字で、今ではこれ以上に増えていると考えられます。

この時間をもっと読書に充てたら、あなたの人生は大きく好転するということを伝えたい想いで、この本を書きました。

終戦後70年、日本は高度経済成長期という時代の中で、世界経済と戦ってきました。終身雇用制度と年功序列制度に守られ、ワークスタイルは画一化し、「みなと同じように仕事を頑張っていればいい」という、いわば昭和の時代がありました。



会社の売り上げは右肩上がり、技術力もどんどん高まり、働く人々は、時代の恩恵にあずかってきたのです。

会社の指示による転勤や部署移動などの理不尽さはあるものの、よほどのことがない限りは、定年まで正社員として会社が面倒を見てくれました。退職金もきちんともらえました。

それが今では時代が大きく変わり、会社の売り上げは上がらず、中国や台湾などアジア勢の台頭により、日本もかつてほどの技術力のアドバンテージが明らかになくなってきました。

その結果、バブル崩壊後から企業が採用の枠を大きく絞ったため、正社員になれない人も多く出てきました。一定期間、正社員というレールから外れてしまえば、派遣社員、契約社員などの非正規労働者としてでしか働けなくなってしまう世の中です。これが、今の日本の格差社会を生み出しました。

いい大学に入りさえすれば、いい会社に入れ、将来安泰で高給取り、という時代も

終わりつつあります。大企業でも倒産したり、リストラをする時代です。

これからの日本では、グローバル化の中で活躍する人材が必要となり、言われたことをこなすだけの人間ではなく、何事も自らが考え、創造力を発揮し、主体性をもって動いていく人間が必要となりました。

個々の人間力と独自のパーソナリティが重視されるようになってきたのです。すなわち、「生きていく力」を自分で磨くしかないのです。

つまり、個々の力を発揮し、生きていく力を身につけるのに必要なのが、「知識と教養」なのです。知識と教養を身につけるには、今からでも決して遅くはありません。自分が思い立った日からはじめても十分間に合います。

みなさんのこれからの人生の中で、今日という日が一番若いのですから。

その知識と教養を与えてくれるのが、まさしく「読書」なのです。

ハッキリ言うと、読書をしない人間は、これから、日本の格差社会では生き残るこ



とはできません。

「そんなことはない、読書しなくても生きていける」と思われた方もいるでしょう。ですが、これから社会の中で核となり、必要とされる人間になるためには、読書は絶対に欠かせないのです。

もちろん、読書以外にも教養を身につける方法があります。

さまざまなところに旅をすることも必要ですし、いろいろな経験を積むということも必要です。

ただしその中でも、読書というのは、現在の成功者、過去の偉人、歴史上の人物など、優れた人から話を聞くようなものなのです。

本には、優れた人の考え方など、他人の脳ミソが詰まっております、その本から必要な情報を取捨選択することによって知識や教養を会得することが、これからの時代を生き延びるために、絶対に必要なことなのです。

本書では、そうした背景を前提とし「なぜ読書が人を変えるのか」「どういう読書

をするべきなのか」「どうやって読書を知識と教養という最強の武器に換えるのか」などを、本のタイトル通りに解説します。そして、その取り組み姿勢やノウハウを深く掘り下げ、激動の現代を生き抜き、近い将来に成功を収めるために必要な「読書」の真価を解き明かす内容に仕上げました。

今の日本の格差社会を生き延びるために、本書は絶対に欠かせません。

もしも、自分には当てはまるかも、と思ったあなたは、今からでも間に合います。

みなさんのこれからの人生の中で、今日という日が一番若いのですから。

読書が持つ偉大な力をこの本から存分に吸収して頂けたら何よりです。

平成28年9月 大岩俊之





第1章

「成功者はみな読書家」である
という事実

section 1

なぜ成功者はみな読書家なのか

18

section 2

たった1500円で他人の脳ミソが
買える(知れる)という事実

24

section 3

なぜ読書をしている人は、
アウトプットやプレゼンが上手なのか

30

section 4

読書で得た知識はその人の考え方や
人生観までも創る力を持っている

36

section 5

読書習慣のない人間は、これからどんな末路を辿るのか

42

section 6

成功者は、時間の使い方が上手い。
電車でゲームをしている場合ではない

48

section 7

格差社会で生き残るために、読書が最強の武器になる理由

54

section 8

成功者は、書齋、本棚にもこだわる

60

第2章

読書を教養に変える方法

9 知識の先に教養があるが、
その知識のものは「経験＋読書」 68

10 日本人に足りないのは教養。
だから、読書という土台が必要 74

11 読書の量が教養の差になる。
資格の有無や学歴の差ではない 80

12 月に4〜5冊は、最低読みたい 86

13 まずは、興味を持ったものから読み始めればいい 92

14 「腑に落ちる」まで、何度も読み返す 98

15 学んだ知識を実際に行動に移してみる 104

第3章

ネットと読書の上手な活用法

確かにネットは便利。

だからこそ読書との使い分けが今求められる

112

ネットだけに頼るのは危険。情報の正確さを見極める

118

ネットからしか得られない情報もあるのは事実

124

興味を持ったことは、

ネットでなく本で知識にする習慣をつける

130

ビジネス書は、ネットのように

気軽に情報を得るツールとして考える

136

第4章

あなたにとつての
「いい読書」「悪い読書」

速読にこだわるのは、百害あって一利なし

144

二代目経営者には、創業者の本は合わない

150

ブックメンターと呼ばれるほど、
本には人生を変える力がある

156

興味を持った本が難しければ、マンガ本から入ってもいい

162

売れている本には理由がある。

それは、世間が求めている知識だから

168

26 いい本だから売れるとは限らない。
自分にとっての1冊を見つける

174

27 いい読書とは、いい本との出会い。
なるべく頻繁に本屋に向こう

180

28 共感できる著者に出会えたらチャンス。
徹底的に著者にこだわれ!

186

chapter 5

第5章

一流の人は、「小説」と「歴史」を 大切にする

29 歴史は繰り返すからこそ、現代に応用できる

194

30 小説を読むと感受性が鍛えられる

200

31 哲学で心のあり方を学ぶ

206

32 徹底的に古典や名著にこだわるのもあり

212

33 偉人や成功者の言葉には、
現代人へのメッセージが詰まっている

218

34 ビジネス書も必要だが、
ノウハウやテクニクに頼りすぎない

224



第1章 *chapter 1*

「成功者はみな読書家」 であるという事実



なぜ成功者はみな読書家なのか

成功したから本を読むのではない

私は5年前に独立起業し、今では、夢であった研修・講演の仕事を年間150日以上こなすようになりました。自分の仕事のレベルが上がるにつれ、周囲に成功者が増えてきたと感じています。

普段、このようなことを言うと、「成功したから」「仕事で必要になったから」本を読むようになったのだと反論する人がいます。

そう言いたくなる気持ちも分からなくはないですが、私が見ている限りでは、成功したから本を読むようになったのではなく、**成功する前から本を読んでいて知識を増やし、自分を高めようとしたからこそ、成功できたのは明らかなのです。**

成功者は読書家というのは、私の意見だけではなく、多くの著名人が自分の著者の中でも記しています。他の有名な人が語っていることを知ると、みなさんも他人事ではなく、自分の事としてとらえられるようになるのではないのでしょうか。

元マイクロソフト社の日本法人社長で、実業家である成毛眞^{なるけまこと}氏の著書『本は10冊同時に読め!』(三笠書房)の中で、このように述べられています。

「世界中の経営者や一流ビジネスマン、官僚、政治家は、みんなたくさん本を読んでいる。もちろん、ビル・ゲイツものすごい量の本を読んできたから、世界一の大富豪にまで昇りつめられたのだ」と。

教育改革実践家である藤原和博氏の著書『本を読む人だけが手にするもの』(日本実業出版社)の中では、このように述べられています。

「私の感覚でいえば、弁護士、コンサルタント、医師などのエキスパートでありながら本を読まない人に、これまで会ったことがない。なぜなら、知識は常に入れ替わっ



ていくもので、最新の情報を持っている人しか、顧客の期待に対して真に応えることができないからだ」と。

このようなことから、成功者はみな読書家であることが、はっきりと言えると思います。読書をする人と、しない人で、「知的格差」「教育格差」が、ハッキリ出てしまっているのです。これでは、収入面や仕事面などで、大きな格差が出てしまっても仕方ありません。

成功するまでやり続けることが大切

私は、「**成功者はみな読書家**」というフレーズをある本で見つけて、年間300冊の本を読むようになりました。この一文が、私の人生を変えたのです。

そう、何気ない言葉が、人生を変えることもあるのです。

読書をすれば成功者の仲間入りができる可能性が広がると考え、私は本気で人生を変えようと思ったのです。

たくさん本を読むためには、速読を身につけた方がいいと思い、速読教室に何度も通いました。そして、年間で300冊読むことを、ずっと続けました。これだけは、今でも自分ですごいと思っています。

私が本を出版するに至った経緯で、一番のポイントは何かといえば、「**最初は出版はできませんでしたが、そのとき立案した企画で、ずっとセミナーをやり続けた**」ことに他なりません。

こうして私は地道に頑張っているうちにある出版社の目に留まり、本を出す著者となったのです。地道な作業を繰り返し返すと、必ず、誰かが見ていてくれるものです。成功するまでやり続けることが大切だということが、自分自身つくづく分かりました。

実際に、読書によって私の生活はがらりと変わった

先日、講演用の資料を作っていたとき、自分がどう変わったのかを書き出していて、あることに気がつきました。当時は無理だと思っていた夢や目標が、ほとんど叶って



いたのです。

どのようなことかというと、

- ・家族と住宅ローンを抱え、みなに反対されながらも独立起業できた。
- ・夢であった著書を、電子書籍を含めて5冊も出すことができた。
- ・人前でしゃべったこともなかった人間が、年間150日ほど登壇するようになった。
- ・今では声をかけて頂ける講師として、セミナー、講演、研修をこなすようになった。

このように、読書によって私の生活はがらりと変わったのです。

本を読むことによって得た知識があったからこそ、見えない将来の不安がありながらも、やり遂げることができたのです。

当然ですが、成功している人は、勉強熱心な人が多いです。

特に、読書をすることで、次のような恩恵が受けられます。

- ・**新しい視点や考え方を与えてくれる。**

- ・筋道を立てて考えるクセが付き、説得力を持った話し方ができるようになる。
- ・常に、考える力が身につく。
- ・文章を読み解く力がつき、文章の理解力が上がる。
- ・成功者の考え方が身につく。
- ・過去の失敗を、本で体験できる。
- ・人間本来のあり方が身につく。
- ・他人の事例が学べる。

本を読まない人は、考える力も増えず、新しい視点で物事を考えることが、本を読む人に比べて乏しくなってしまう。

この差が、「知的格差」や「教育格差」を顕著に生みだしているのです。

ですが、生き方にはいろいろな考えがあります。

みなさんはどちらの人生を選択するのか、それは自由です。





たった1500円で他人の脳ミソが 買える（知れる）という事実

無料で得られるものからは何も生まれない

本を読まない人に本の価値について尋ねてみると、たいてい「本は高い！」という答えが返ってきます。

確かに、デフレの時代で、モノの値段はかなり下がりました。

100円ショップの台頭や、ファストファッションと呼ばれる安い衣料品を販売しているお店が出てきたり、家電量販店で安くなった高性能の家電を見てみると、たった1冊で1500円もする本は高いと思っています。本は、値段も下がっておらず、値引きも一切ありませんしね。

本を読まない人は本の効果を知らないのです、値段だけ比べれば、単純に高く感じてしまいます。しかし、**本の効果を知っている人にとっては、非常に安い買い物**だということが分かります。

会社員の人は、会社で研修を受けた経験があるのではないのでしょうか。もしかしたら、会社から無理やり受けさせられたのかもしれませんが。これは、無料だと思っている人が多いのですが、きちんと会社がみなさんの代わりにお金を払っています。

なので、本の1500円が高いと思ってしまうのです。

この感覚が、非常によくないのです。**無料のセミナーを探している人もいますが、このように無料で得られるものからは、何も生まれません。**このような感覚では、どんどん知的格差が開いてしまっても仕方がないのです。

本1冊で人生が変わるなら安いもの

本を書いてみると分かるのですが、200ページ前後の原稿を書くのに、かなりの時間を要します。最低でも、数か月はかかります。1日〜2日で、完成するものでは



ありません。その間に、内容を棚卸ししたり、参考になる文献を何十冊〜何百冊読み込まなければなりません。

完成までの時間は、著者の仕事の忙しさや、空き時間の使い方によっても違いますが、私は1冊が1500円で売られるなんて想像もつきません。逆に、1冊数万円で売ってほしいくらいです。

そのうえに、著者が、何十年もかけて勉強してきたこと、経験してきたことが、1冊の本にまとめられているのです。本を書くような人は、たくさん失敗もしていきすし、自己投資にものごくお金を使っているはずですよ。

さらに出版社は、本を書く人を慎重に選んでいますので、それなりに実績や知名度のある人しか本は出せないのが実状です。その本を書くのにふさわしい著者であるかどうかは、非常に大切な要素なのです。

本は、通常では会えないような著名人の頭の中を、たった1500円で知ることができるのです。今では出会えない過去の偉人の考え方が、古典を読めば分かるのです。

これは、すごいことだと思いませんか？

これで、人生が変わるなら安いものです。

テレビに出ているような有名人に会いたいと思っても、まず会えませんよね。そんなときに、その人の頭の中を知りたいと思えば、本を買って読めばいいのです。

テレビに出ているような人は、たいいてい本をたくさん書いています。その本を全部読めば、「普段、どのようなことを考えているのか？」「今までにどのような苦労をしてきたのか？」などを知ることができます。

有名人でなくとも、いろいろな人がSNSなどで紹介している人、雑誌や新聞に取り上げられている人、ネット上でコラムを持っている人など、気になる人が出てきます。

そんなとき、その人のことをもっと知りたいと思えば、たいいていは、その人のホームページやブログを見にいけます。それよりも、もっとその人のことを知りたければ、その人の著書を読むことです。著書のない人もいますが、何らかの著作がある確率はものすごく高いのです。



転職する方法を知りたければ、その道のプロの本を読み、やり方を教えてもらえばいいのです。

営業で売れるようになりたければ、営業に関する本を読んで、営業成績がよかった人の脳ミソを借りればいいのです。

セミナー講師になりたければ、セミナー講師で活躍している人の本を読んで、やり方をマネすればいいのです。

心理カウンセラーになりたければ、心理カウンセラーで有名な人の本を読んで、やり方のヒントをつかめばいいのです。

このように、本から得られる知識や内容というのは、計り知れません。

特に、私がすごいと思っているのが、今では会えないような人、すなわち今存在しない人のことです。過去の哲学者、偉人、歴史上の人物の考え方を知ることができ

ることです。

過去の哲学者、偉人、歴史上の人物の考え方というのは、本でしか知り得ないのです。長い間、本を通してその内容が受け継がれてきている、いわば宝物なのです。

このように、自分がなりたいたいと思っ描いている人の本を購入し、その人の頭の中を借りて、実際に自分で試してみればいいのです。

これは正直にいうと、ものすごく効果がある方法です。

過去の哲学者、偉人、歴史上の人物の考え方を自分の糧とし、経営に生かしたり、ビジネスに生かしたり、自分自身の生き方に生かすことができます。

つまり、自分の人生のベースを作ってくれるのです。

本の中身と費用対効果を考えれば、1500円の投資というものは、非常に安い買い物なのです。

たった、1500円をケチるリスクの方が、高いとは思いませんか？





なぜ読書をしている人は、 アウトプットやプレゼンが上手なのか

インプットが常にあるからアウトプットが豊富

成功している読書家は、雑誌やコミュニケーションの使い手です。

今の時代、コミュニケーションができれば、ビジネスは成り立ちません。成功者は、必ずといっていいほど、コミュニケーションの達人なのです。

成功者は、なぜコミュニケーションの達人になるのかというと、

- ・会社の朝礼で、社員に向けて話す機会がある。
- ・会社の代表として、プレゼンする機会がある。
- ・成功者同士で集まる機会が多い。

このような機会が豊富だからこそ、自然とコミュニケーションやプレゼンの達人に

なっていくわけです。

また、たとえ営業職であったとしても、大勢の人の前でしゃべる機会は限られており、放っておくとプレゼンはなかなか上手にはなれません。

そうになると、読書で知識を得る必要がなくなってしまいます。

何せ、普段使わなければ、本を読もうという気にもなれないかもしれませんから。会社の代表の人や、人前でしゃべる人は、ほとんど読書で本から知識や考え方を吸収しようとしています。そうすることで、話の内容に厚みが増します。会社の代表として、人前でしゃべる機会や、講演する機会というのは、成功者、経営者だからあるのです。

読書を糧に試行錯誤することが大切

私もセミナー、講演、研修などをしているので、人前でしゃべるのは平気です。というよりも、何千回という登壇を続けて、平気といえる状態になりました。これは、私が独立起業してから身につけたスキルです。もともと、できたわけではありません。



努力して身につけたとスキルだと、ハッキリ言えます。

講師業は、中途半端な気持ちで食べていけるような世界ではありません。本業の間など、ついでにやっているだけでは、たかがしれています。この仕事で、一家を支えるくらいの気持ちがないと、プロになって大きく稼ぐことはできないのです。

人に伝えるということは、目の前にいる人だけでなく、その人を通して、たくさんの人たちに伝染していきます。参加者が30人だったとしたら、30人に伝えるのではなく、3000人に伝えるつもりで、私はやっています。

人の人生に、影響を与えるという責任があるのです。

自分が食べていくために、「どうしたら人が集まるのか?」「どうしたら商品を買ってもらえるのか?」「どうしたら、伝わるのか?」と、考えて、試行錯誤することが重要なのです。このような前向きなマインドが必要なのだと思います。

結局、人前でしゃべる仕事をしている人は、読書家が多いような気がします。人に伝えるためには、たくさんさんの知識を吸収しないといけないからです。となると、雑誌や新聞もそうですが、本から学ぶことが非常に多いのです。

自分のビジネスを広げようと思ったら、本人が前面に立って、セミナーなどを開催し、プロモーションしていく機会が必要となります。

このように、人前でしゃべる機会を、自分で作り出しているのです。

人前に立ってしゃべる、何かを伝えるということが、プレゼンの達人になる秘訣でもあるのです。

これからは、**人前でしゃべれないと成功できない、十分に稼げないのと同じように、読書家でなければ、この格差社会で成功はできない**と、私は確信しています。

成功している人はアンテナの感度が高い

普段から、何も考えずに、成功者の話しを聞いているだけだと、「話しのネタが多いな」「話しが面白いな」などと感じてしまい、肝心なところに気がつかずに終わってしまいます。

成功者や人前でしゃべるプロ講師は、普段から、面白そうなネタはないかと、アン



テナを立てています。電車で隣に座った人の会話から、電車の中の広告から、テレビ、雑誌などからと、知識吸収に余念がありません。

ちなみに、読書がコミュニケーションに与える影響というのは、とても多いですよ。例えば、

- ・書籍はいろいろな情報の宝庫である。
- ・ビジネス書は今の流行が分かる。
- ・繰り返し本を読むから自分の身になる。
- ・新聞や雑誌から旬のネタをつかめる。
- ・人の成功や失敗体験が共有できるツールとなる。
- ・教養を身につけるために古典を学べる。
- ・人間としての基礎を哲学から学べる。
- ・自分のブックメンター（後述）から成功法則を学べる。

このように、本から学べることは、たくさんあります。

人前でプレゼンするために本を読む人もいるでしょう。ですが、たいしては、本を読んでいたから成功者になり、成功したから人前でしゃべる機会が増えた、というサイクルが正しいでしょう。

つまり読書が、すべての基本となっているのです。

人前で話すなど、アウトプットを前提とした読書というのは、非常に頭に入りやすいのです。ただ単に本を読むだけの人と、何でもいいですが、人前でしゃべることが前提となっているアウトプットを考えた読書とでは、自分の身になるスピードが違います。

人前でしゃべる機会が多い人ほど、読書をした効果は顕著に現れます。

読書とコミュニケーション、成功者とプレゼン、プレゼンとアウトプット、それぞれが、密接に絡み合っているのがお分かりいただけたでしょうか。

成功したければ、今から読書をはじめても、決して遅くはありません。





読書で得た知識はその人の考え方や 人生観までも創る力を持っている

自分を信じて努力することで結果は出る

読書で得られるものはなんでしょう？

読書をした先には何があるのでしょうか？

おそらく、このような疑問を持つ人も多いのではないのでしょうか。

読書をする、先述したような利点があるのですが、実はこれだけではなく、読書はみなさんの考え方や人生観までも創る力を持っているのです。

1冊の本が、人の人生までも変えてしまうのです。

結果的には、日本、世界を変えることにもつながります。

市場には「成功者がどうやって成功したのか」が書いてある本が、たくさんあります。必ず、その本の中には、ある人に出会ったり、読書である考え方に感銘を受けたことが書かれていたりします。それらを知るために、私は読書が続けてきたのです。

ひとつの難点を挙げるとすれば、それらの本を読んでも、自分が成功できるかどうかは分からないことです。それでも、自分を信じて努力を続けた人が結果を残すのです。私も、自分を信じて努力し続けて、結果を残すことができました。

日本を代表する実業家であるソフトバンクグループ代表取締役社長である孫正義氏や、ファーストリテイリング会長兼社長である柳井正氏は、かなりの読書家であることで知られています。

孫正義氏の愛読書は、司馬遼太郎の『竜馬がゆく』（文春文庫）だとのことで、創業時代に数々の経営難や、病気になるたびに救ってくれた1冊のようです。

一方、柳井正氏の愛読書は、ハロルド・ジェニーンズの『プロフェッショナルマネージャー』（プレジデント社）だそうです。本の帯にも、柳井正氏が「これが私の最高



の教科書だ」と書いてある通り、経営の教科書としてもおすすめしていることは有名です。

2人の考え方や人生観は、実際に本から創り上げられているのです。

1冊の本が本当に人の人生を変えてしまう

先日、経営者が集まる会で講演をさせていただきました。その2次会で、すでに成功している経営者から、本にサインを求められたのですが、その中には名古屋、いや世界を代表する、居酒屋チェーンの会長がいらっしゃいました。

その方も、ある1冊の本に感銘を受けて、1軒のお店からスタートしたそうです。その本に書いてあることを忠実に行動に移した結果、今では百店舗にも近いお店を経営する人になったことを、その場でお聞きしました。

本当に、**1冊の本が人生を変えるきっかけを作る**ことを、あらためて、感じさせら

れた出来事でした。

この本を読んだみなさんは、せっかく、読書が人生の役に立つことを知ったのですから、ぜひ、もっともっと意識を高くしてもらいたいと思います。

本があるからこそ、成し得ることがある

明治大学の教授である齋藤孝氏の著書『読書力』（岩波書店）には、このように書かれています。

「何のために読書をするのか。読書をする何がよいのか。こうした問いに対する私の答えは、例えば、読書は自己形成のための糧だからであるというものであったり、読書はコミュニケーション力の基礎となるからだ」といったものでした。

読書とは、自分自身を形成するための根本になると考えてよいでしょう。

自分に合った本や著者に会うことで、どんどん自分自身が形成されていきます。



仕事や人生で困ったときに、心の支えとなってくれるでしょう。

私が起業に興味を持ったとき、一番最初に読んだのが、ナポレオン・ヒルの『成功哲学』（現在はきこ書房）でした。17歳のころに、本屋さんでたまたま見つけました。何とか人生を逆転させたいと思って、何度も何度も読んだことを思い出します。両親には、「いい大学に入って、一流企業に勤めなさい！」と言われ続けてきたため、親に反抗しなかったのか、とにかくこの本に書いてある考え方に夢中でした。成功して、夢を叶えなかったのです。親に話して大激怒されてからは、起業したいという思いを人に話さないようになりましたが、その気持ちは心の中で湧き上がっていました。その後、大学に進学し、卒業時にも親に大反対され、仕方なく就職する道を選びましたが、やっとの思いで5年前に起業しました。起業の考え方を目覚めさせてくれたのは、ナポレオン・ヒルの『成功哲学』だったのです。

ちなみに起業前後で、私のメンターの存在になった本は、他にもあります。それは、戸田智弘氏の著書『働く理由 99の名言に学ぶシゴト論』（ディスカヴァー・トゥエ

ンティワン）です。偉人や成功者のキャリアに関する名言を抜き出したものです。

この本に書いてある言葉に感銘を受けて、仕事も貯金もほとんどない中、まわりの反対を押し切って起業したのですが、今思えば本当によかったと思っています。

この本の参考になったところは、後の章で詳しくお話しますが、起業してから、仕事がなかったときも、この本に書いてある偉人の言葉に何度救われたことでしょうか。自分が成功している数年後の姿だけを思い描き、成功者と同じ行動をできる限りマネして、何とか切り抜けてきました。

会社員であったころの行動と全く逆のことをしていたので、周囲からはかなり叩かれましたが、本があったからこそ、耐え抜くことができました。

このように、この2冊の本は、私の人生観を創ってくれました。

「読書の先には何かがあるのか？」と感ずるかもしれませんが、その先を信じて読書をしてきた人と読書をしなかった人とは、結果的に知的格差が開いてしまうのです。





読書習慣のない人間は、 これからどんな末路を辿るのか

世界は今、大変な時代に突入している

私立中学校1年生になったばかりの私の娘は、学校からある用紙をもらってきました。とても感心させられたのですが、そこには、こんなことが書いてありました。

「難関大、難関学部合格で、一生安泰とは言えなくなる時代到来」

一部省略しますが、次に、このように説明されました。

「終身雇用、年功序列などの雇用の変化↓少子化↓市場の縮小↓グローバル化↓正解のない答えを創造する力↓大学の変革↓大変な時代へ」

本当にその通りです。それを知らず、いまだに大企業入社を夢見て、学歴信仰を続

けている親も多いのです。

子供に、自分の世代と同じように、大企業に入れば一生安泰だと思って、教育している親は実に多いのです。公務員という仕事が人気なもの、その表れでしょう。

今までは、正社員で会社に入社さえすれば、会社が守ってくれました。本を読んで知識を増やし、自分の考えを持たなくても、会社に言われたことをやっていけばよかったです。

それが、バブルの崩壊、リーマンショックで、だいぶ状況が変わってきました。

今後もイギリスのEU離脱問題で、また経済に大きく変化があるかもしれません。

正社員での採用は絞られ、契約社員や派遣社員などの非正規労働者が増えました。景気の悪い会社は、リストラや採用抑制によって、人員はかなり減っています。

今の正社員は、昔の2〜3倍の仕事をしなくてはならなくなっていました。



大企業でももはや安泰な時代ではない

日頃、企業研修やコンサルティングをしているときに会社員の方と話をしますが、ほとんどの方が「本は読まない」と答えます。本を読む人は、読書が趣味の人くらいで、自分を高めるために本を読んでいる人は、ほとんどいないように感じます。

もし、一生懸命勉強し、いい学校に入って、自分が納得する大きな会社に入れたとしても、万が一入社した会社で環境が合わなかったり、人間関係で悩んでしまい、メンタル的な病気になったりして、一度正社員のルールから外れると、大変なことになります。まだ若ければいいですが、ある程度の年齢になると、非正規労働者になる可能性は非常に高くなってしまいます。

一度、非正規労働者になってしまうと、なかなか正社員には戻りません。年収の低い男性の場合は、結婚さえもできないという現実もあるようです。

それぞれの時代に人気のあった企業は、数十年経過した後、業績のよくない会社に変わっていることは多々あります。

銀行は合併を繰り返して、ダイエーや日本航空は経営破綻し、パナソニックやソニーが、こんなに低迷してしまおうとは、誰も想像だにできなかったでしょう。つい最近では、シャープが外国企業に身売りしてしまおうというニュースがありました。**40代・50代でリストラされたら大変です。しかし、自分でよいと思って会社に入った末路は、こんな感じなのです。**

読書が自分の身を守る投資になる

先日も「同一労働同一賃金」の話が話題となりました。非正規労働者が、正社員と同じ仕事をしているのに、給料が全然違うと訴えているのは分かります。

そこで読書習慣を身につけて教養を学び、自分で稼げる能力を身につけていれば、正社員で会社に入れたかもしれませんし、起業して自分で稼げたかもしれません。



その努力を怠ったのに、国が悪い、企業が悪いと、騒動を起こしても仕方がありません。自分の身は、自分で守るしかないのです。こんなことにならないよう、本を読んで教養を身につけておかないといけません。

先ほども述べましたが、**現代の社会人は、仕事以外の勉強はほとんどしていません。長い目で見た、自分への投資がありません。**当然、本も読みません。

大学入試も、2020年から大きく変わります。今までの暗記中心の「知識偏重型」から、思考力や判断力をいろいろな角度から評価する「知識活用型」への移行を目標としています。学校側も今までのような暗記中心の教育ではなくなってくるでしょう。

企業の採用方針も変えなければならぬときが来るかもしれません。

海外のように、日本も新卒一括採用（大学卒業と同時に会社に入る）の時代ではなくなると、大学を卒業したからといっても正社員での就職先はなくなってしまう。

自分の実力がなければ、仕事はなくなってしまうのです。

必要なのは、会社で文句も言わず、言われていることを従順にこなすという能力ではないのです。**どの会社でも通用する、起業してもやっていけるスキルなのです。**

将来的には、日本の企業は自動化を進め、仕事がなくなっていくと説いている人もいます。

ただ、モノを作ればいい時代ではなく、新しいことを考えて、創り出さないとけない時代なのです。つまり、知的創造です。

日本からは、グーグルやアップルのような、画期的なことを考える会社が出てきていません。ソニー、シャープ、東芝など、モノづくりの会社は、みな苦しんでいます。

これも、本を読んで、自分の頭で考えるということをしなない経営陣が多いからではないかと私は思っています。





成功者は、時間の使い方が上手い。 電車でゲームをしている場合ではない

「本を読む時間がない」は言い訳でしかない

私は日頃、講演やセミナーなどで、会社員や経営者の方などに向けて「読書が大切ですよー」とお伝えしているのですが、たいていこのような返事が返ってきます。

- ・本を読む時間がない。
 - ・本を買うお金がない。
- たいてい、この2つです。

まだ、本を読むことの大切さが分かっていないと考えている方はいいと思えますが、そもそも本を読むことの大切ささえも考えたことがない方もたくさんいます。

本を読む時間がないという方が多いのですが、はたして本当に時間がないのでしょうか。成功している人のほうが、はるかに忙しいはずですが、本を読まない人は、自分が一番忙しいと思ってしまうのかもしれませんが。

私も会社員時代、22時、23時まで毎日仕事をしていました。休みの日は読書どころではありません。家族サービスだって必要です。ストレスも解消したいので、趣味にも時間を使いたいです。ですので、気持ちはよく分かります。

しかし現在の私は、フリーランスとして独立し、最近ではかなり忙しくなってきました。休みの日は、正直ほとんどありません。仕事に出かける予定がなくても、このように執筆活動をしたり、講演や研修のテキストを作ったりしています。経費精算や請求書の作成もしています。

それでも、実際に多くの本を継続的に読んでるので、作ろうと思えば本を読む時間はあるのです。不思議な感じですが。会社員のとときのほうが、休みの日はあつたはずです。仕事から解放された自由な時間はあつたはずなのです。

立ち読みサンプル
はここまで

